

学長挨拶

本学の「やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援」事業は、平成 20 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択されました。本事業は、3 年間にわたり、男女共同参画キャリアデザインラボラトリーを中心に、女性研究者支援策を積極的に展開し、女性研究者、女性リーダーを増やすとともに、女性が生き生きと活躍できる男女共同参画支援モデルの開発を行うものです。

本学は、平成 13 年度から男女共同参画推進委員会を設置し、様々な女性支援策に取り組んでまいりましたが、昨年度来、本事業により、次の具体的な施策をより一層積極的に展開しています。まず 1 番目としては「男女が働きやすい職場環境の実現」、2 番目は「金沢大学人材バンクを始めとする情報発信および情報交換の場の提供」、3 番目は「多様なキャリアパスの創出」、4 番目には、「講演会やイベントなどの広報・啓発活動」です。この啓発活動の一貫として、次世代の女性研究者が育つように、高校への出前実験なども実施し、若い世代が理系分野へ参入するよう、学外においても働きかけております。

また 11 月には、「第 2 回金沢大学女性研究者支援シンポジウム 女性研究者のキャリア継続～社会・制度・パートナーの役割～」を実施し、これまでの活動の報告とともに、女性研究者の生き方やキャリアに、社会のシステムや大学の制度がどのような影響を与えているのか、また、女性研究者がキャリアを継続するためには、身近なパートナーの姿勢やどのようなサポートが制度として必要なのか、などについて提案させていただきました。このように、本学は、女性研究者が積極的に研究と取り組み、継続できるように、また、次世代の女性たちが研究者を志すように、全学をあげて本事業に取り組んでおります。

昨今、多様性が重要視されていますが、性別や国籍、人種、年齢など、多様な人材が存在する環境からは、より質の高いアイデアや創造性が生み出されるといわれています。

「やる気に応えます 金沢大学女性研究者支援」事業は、研究者としての志を高く持つ女性たちを支援するプログラムです。今後も、学内外の理解と連携を深めることにより、女性研究者支援プログラムを強力に推進していきます。本学の女性研究者をはじめ、様々な分野の女性たちの活躍により、日本の科学・技術の未来像が明るく描かれることを期待しています。

金沢大学長

中村 信一

はじめに

「金沢大学女性研究者支援事業 中間報告」

金沢大学の女性研究者支援事業が採択されて2年目となる本年度は、進捗状況に違いはあるものの当初の計画は着実に進展しており、その状況は大学のホームページからいつでも閲覧可能です。女性研究者支援は、4側面——「人材サロン」、「働きやすい職場環境」、「広報啓発活動」、「多様なキャリアパス」の充実——に大別されます。男女共同参画キャリアデザインラボラトリー（以下ラボ）には、プロジェクトオフィサー（以下P.O.）である教員2名が常時おり、各活動の企画や運営を担当しています。4事業・活動を担当する人材の決定と参加者の募集、また事業計画の方向性や進捗状況確認のための定期的なラボ会議、シンポジウムの運営やセミナーの企画、さらにはキャリアカウンセリング等々の実施により、女性研究者の支援に繋がる多様な活動をP.O.中心にラボは展開しています。

「人材バンク」は、求める人を求められる人に繋ぐシステムで、現在迄の登録者は約60名ですが、事業3年目に向けてさらに拡大を図りたい所です。ラボではその他、キャリアカウンセリングをはじめ女性研究者の拡大へと結びつく企画や研究活動を支援する企画を実施しています。

「働きやすい職場環境」には里山を利用した保育支援があげられます。本学の研究者である父や母が集中して研究活動に取り組むための時間の確保と同時に、里山活動に参加する子供たちが、自然に親しみ興味・関心を持つための仕掛けです。また、育児・介護休業金沢プランも、引き続き慎重に検討中です。

そして、研究継続のための人的サポートは、「多様なキャリアパス」と称して「研究パートナー制度」を立ち上げましたが、学内の女性研究者にはこれが非常に高評でした。育児・介護で多忙な女性研究者に対し、研究補助をする研究パートナーを派遣することにより、研究活動が維持・継続できる点が高く評価されました。また、本学の特徴の一つである、Skilled Specialistというポジションの設置。このポストは、女性研究者予備軍であるものの研究活動の継続に迷っている院生やポスドクをエンカレッジし、自立した女性研究者を育成するシステムになるのでは、と期待しています。

上記の各プログラムは平行して展開し、「広報啓発活動」により、それぞれの情報を発信しています。ジェンダー関連の授業や講演会・研究会・イベントの開催の情報を中心に、多様な手段で発信しています。さらに女子中高生を対象とした理系進学のためのサポートや意識調査も実施しました。

現在、全学をあげて女性研究者の増加に関する数値目標と取り組んでいます。それは、全学の女性研究者・理工系の女性研究者・女性の教授職、それぞれの割合を上昇させる事です。本事業が終了する迄の1年間で、本事業の開始時点で掲げた数値目標が達成できるように努力いたしますので、一層のご協力をお願いする次第です。

金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー長
八重澤 美知子